



大すきいっぱい西北の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和8年7月16日
長崎市立西北小学校
文責：校長 江原芳樹
R8年度 7月号

今週末より、夏休みが始まります。子供にとって夏休みは特別な時間です。日頃の学校生活ではできない、様々な体験や気づきがあります。子供の健全育成には欠くことのできない大切な時間です。と同時に、学校とは異なる様々な危険に出会うときでもあります。

夏休みという子供にとって大切な時間を安全・安心に過ごすことができるよう、私たち周りの大人が見守り続けることのできる環境を一層大切にしたいと願います。

今年は8月9日、8月26日を登校日としています。元気な姿で、また全員で顔を合わせたいと思います。

夏休み「3つの取り組んでほしいこと」

夏休みは、普段の学校生活と異なり、自分で自分の生活を整えていかなければなりません。そこで、次のことに取り組んでほしいと考えています。

① 家族の一員として、仕事（役割）のある生活を過ごしてほしい。

夏休みは、家庭内で大切な仕事（役割）をもたせてください。すでに仕事もたせているご家庭は、夏休み期間はもう少し要求を高めた仕事を任せてみてください。大切なことは、「任せる」こと。失敗や不十分さにも責任をもたせることです。

② 学校で学習したことを生活の中で生かしてほしい。

学校では教科書を中心に学習をすすめますが、本質的な学習は、いつも生活の中にあります。学習が生活場面で「使える学び」となるためにも、夏休みは大切な期間です。

「わかる」が、「できる」へと発展する夏休みを期待しています。

③ 日頃できないことに挑戦してほしい。

「長編の本を読破する」「いつも疑問だったことを解決する」

「2週間かけて〇〇に取り組む」など、時間をかけて取り組むことができるのが夏休みです。結果や成果を求めるのではなく、挑戦することに大きな価値があります。

学校から出される夏休みの課題は、1学期の振り返りと学習習慣の継続が目的です。それだけに終わることなく、「夏休みならでは」「夏休みだからできること」を自ら計画し、やってみることにこそ、「学びが子供の力になる」ことの本質があります。

ぜひ、夏休み前に、ご家庭でも夏休みの過ごし方、学習の仕方について、子供たちと話し合う時間を設け、充実した夏休みを実現してください。

西北小学校キャラクター「ニシキタン」

今年、どうしてもやりたかったことに「西北小学校のキャラクターづくり」があります。6年生に呼びかけ、有志が集まり「ニシキタンプロジェクト」を立ち上げました。運動会が終わった頃から、メンバーが昼休みに集まり、キャラクター設定の話し合いを進めました。いろいろな考えから、4つの候補がつくられ、全校児童の投票により、ついに西北小

学校のキャラクター「ニシキタン」が決まりました。

西北小学校「めざす子供の姿」の3本柱となる、「学びづくり」「くらしづくり」「仲間づくり」に合わせて、それぞれ「ニシキタン学び」「ニシキタンくらし」「ニシキタン仲間」と言います。

緑色の「ニシキタン学び」がかぶっている帽子は岩屋山です。黄色の「ニシキタンくらし」の頭には六地藏がのっています。さだまさしさんに憧れているのでいつもギターをもっているのです。青い色の「ニシキタン仲間」の背中には、子供たちをいつもつなぐオーブがあります。こうしたキャラクター設定は、6年生の「ニシキタンプロジェクト」のメンバーが考えたものです。

これから、様々な場面で登場することになると思います。よろしくお願いします。



2学期より中部給食センターへ移行します

長崎市では、既存施設の老朽化やアレルギー対応の充実のため、市内3箇所への給食施設集約が進められてきました。2022年に稼働した「長崎市北部学校給食センター」に加え、いよいよ9月からは、中部・南部給食センターが稼働し、西北小学校も中部給食センターへ移行することとなりました。



中部給食センターは、旧川平小学校跡地に建設された、最新設備の給食センターです。「食材検収」「調理」「配缶・積込み」「配送運搬」の工程が安心安全に組まれています。子供たちが実際に給食時に使用する食缶や食器も変わります。8月26日の登校日には、給食リハーサルを行い、子供たちもはじめて中部給食センターから配送された給食を食べることになります。

現在の給食室は配膳室となり、調理スペースの部分は、今後「集会室」など、活用していく予定です。

《校長散歩道 No.28》

「素直さ」を私は柔軟性と捉えています。

イソップ物語の「巨樹と葦」も柔軟性の価値を説く教えです。

『巨樹と葦』は、大きく立派な樫の木とその足元に生える細い葦の物語です。

樫の木は自分の太い幹と立派な枝を誇り、風に揺れる細い葦を見下していました。「私を見なさい。どんな嵐が来ても、私はびくともしない。それに比べてあなたはそよ風でも揺れている。惨めなものだ」と葦をあざ笑います。しかし、ある日激しい嵐がやってきました。樫の木は風に抵抗して踏ん張ろうとしましたが、強すぎる風によってついに根っこから倒れてしまいました。一方、葦は風に身を任せて柔軟に曲がり、嵐が過ぎ去った後も無事に立っていました。柔軟性が真の強さをもたらす教えとされています。

子供には「素直な分だけ伸びていく」という言葉で伝えています。混沌とした世の中ですが、「素直さ」という武器を身に付けた子供を育てたいと願っています。